

V 野 菜 作

夏まき短根にんじんの品種について

1 試験のねらい

夏まき秋冬どり短根にんじんの栽培では耐寒性強く、良質・多収品種が強く求められているが、最近では数多くの品種が市販され、品種選定にあたって苦慮してきた。そこで、これらの目的に合致した5寸系品種を選定するため昭和56年に検討を行った。

2 試験方法

紅福625ほか19品種を供試し、7月27日にうね幅20cm、株間15cmの3条には種した。規模は1区30株、2区制で、施肥量は3要素とも1.5kg/aとし、その他の管理は慣行に準じた。なお、2月23日収穫は寒害防止のため12月4日に土寄せを行った。

3 試験結果及び考察

生育初期に立枯病が発生し、特に黒田5寸の発生は著しく、収穫率にも大きな影響を与えたが、その後の生育は各品種ともほぼ順調であった。

根重は11月20日及び2月23日収穫時ともキング夏紅5寸2号が最も大きく、次いで夏蒔鮮紅5寸、天紅5寸で、最も小さかったのは11月20日ではT号冬越5寸、2月23日は小泉冬越5寸であったが、各品種とも11月20日に比較し2月23日収穫は根重の増加が認められた。その増加量は15~82gと品種間に大きな差を生じたが、この差は品種の早晩性や低温肥大性の差によるものと思われる。

a 当たり収量は根重が大きく、収穫率の高い品種ほど優れ 両収穫期とも根重及び収穫率の勝ったキング夏紅5寸2号が最も多収で、次いで11月20日収穫ではキング夏紅5寸3号、天紅5寸が、2月23日収穫では夏蒔鮮紅5寸、夏蒔早生5寸が多収となり、収穫率の劣った黒田5寸は両収穫期とも最も低収となった。

品質調査は11月20日収穫時に実施したが、そろいは夏蒔鮮紅5寸、夏蒔金港紅5寸及び紅水5寸1号が極めて優れ、根色は新黒田5寸及びキング夏蒔5寸2号が、また、肉色はキング夏紅5寸2号及び紅水5寸1号が他品種に比較しやや優れた。なお、小泉冬越5寸、US春光5寸、吸込尾張5寸及びT号冬越5寸はそろい、根色及び肉色ともやや劣った。

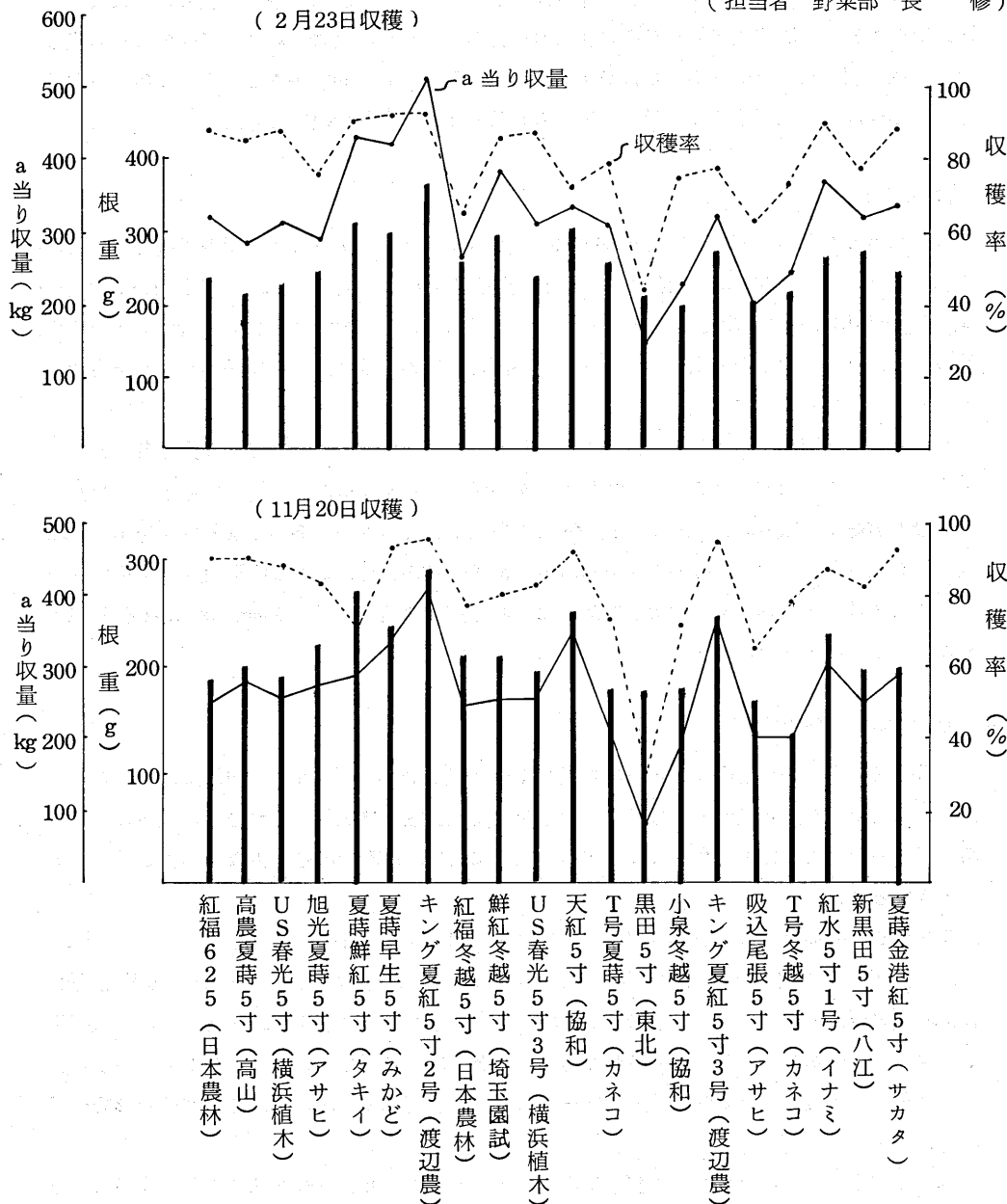
収穫時の裂根や歧根など不良根の発生は黒田5寸、新黒田5寸及び紅福冬越5寸などでやや発生が多く、小泉冬越5寸及びキング夏紅5寸2号では極めて少なかった。また、耐寒性は天紅5寸及び黒田5寸で劣ったほかは品種間に大きな差は認められなかった。

4 成果の要約

短根にんじんの夏まき秋冬どり栽培に適した品種を選定するため、品種比較試験を行った結

果、良質・多収で、不良根の発生も少なく、耐寒性の優れたキング夏紅5寸2号が最も有望と思われた。次いで収量はやや劣るがそろい、品質とも優れた夏蒔鮮紅5寸、紅水5寸1号及び夏蒔金港紅5寸が、また、そろいにやや問題はあものものの収量の多い夏蒔早生5寸がやや有望と認められた。

(担当者 野菜部 長 修)



図一 収穫時期と収量及び収穫率 (%)